房取りミニトマトの決定品種
ジェナリー（Genery RZ）

（はじめに）

近年ヨーロッパや北米では、野菜価格の低迷や労働賃金の高騰から、収穫に労力のかかる個取りのミニトマト品種の生産が減少し、房取りミニトマト品種の生産が主流となっています。ライク・ズワーン社（以下 RZ 社）のミニトマト品種開発も、完全に房取り品種の開発にシフトしています。日本のミニトマト生産の現場でも、近年の青果価格の低迷等から生産コストの低減が求められていますが、収穫にかかる労力が大きな問題となっています。また、労働力の確保も困難になってきていることから、特にミニトマト生産においては、房取り収穫へのシフトが自然の流れであると考えられます。その様な状況の中、今回は日本の環境条件下においても安定して房取り収穫が可能なミニトマト品種ジェナリー （Genery RZ）を紹介致します。

（品種特性）

1　日本の環境条件下においても、安定して美しい果房を着ける TYLCV 耐病性の房取りミニトマト品種
2　花房当り 15～20 果程度の果実が着き、コンパクトな果房となります。
3　果重は 20g 弱、果色が濃く、玉揃いも良く、美しい果房となります。
4　糖度は安定して Brix8 度以上、食味良好
5　草勢はややおとなしく、スッキリとした草姿となり、受光体勢に優れます。つる下ろし作業も容易です。
6　従来の個取りのミニトマト品種では週2～3回の収穫作業が必要ですが、本房取り品種では週 1 回程度で済みます。
7　病害抵抗性はタバコモザイクウィルス（Tm-2a）、萎凋病レース 1,2、半身萎凋病
　病虫害耐性はトマト黄化葉巻病（TYLCV）、ネコブセンチュウ

（栽培上の注意点）

1　房取り収穫を主体に行うためには、15℃以上の夜温管理が必要です。
2　時期により房取りと個取りの併用を行うことが、より現実的です。
3　花房先端の小果を摘果し、花房当り 13～15 果程度の果実を着けます。
4　ダブル花房となった時は、片方の花梗枝を切り落とします。

RZ社トマト展示圃における栽培終了時（11月中旬）のジェナリーのCrop Registration（生育・収穫調査）データ（2016年）

品種名	積算収量 (kg/m²)	平均果重 (g/果)	平均糖度 Brix(度)	積算収穫果数 (収穫果数/㎡)	主茎長 (㎝)	平均茎径* (mm)	平均葉長** (cm)	開花花房段数
ジェナリー（Genery RZ）	**30.9**	**17.4**	**8.4**	**1789**	**1018.7**	**9.8**	**37.4**	**42.3**
テイスタリー（Tastery RZ）	34.6	22.3	7.8	－	－	－	－	36.2

*: 開花花房直上の茎径を計測、 **: 開花花房直下の葉長を計測

愛知県内のジェナリー生産者様の圃場

ジェナリー果房形状

（問い合わせ先）
高田種苗株式会社
〒531-0041
大阪市北区天神橋 8 丁目 3-10
TEL:06-6353-0551
FAX:06-6357-1938
e-mail:madoguchi@takadaseed.com